

Hikari City

やさしさあふれる 「わ」のまち ひかり

ひかり宣言

おっばい
都市宣言

未来

ひかり宣言

3つの都市宣言と
ともに歩んできた10年間
私たちは受け継がれる
かけがえのない「光」を
きらめく未来へと
つなげていきます

過去

安全・安心
都市宣言

自然敬愛
都市宣言

現在



ひかり宣言

3つの都市宣言

それは
このまちに暮らす
わたしたちの誓い

3つの都市宣言

おっばい
都市宣言

未来

過去

安全・安心
都市宣言

自然敬愛
都市宣言

現在



目次 / contents

3つの都市宣言	2
おっばい都市宣言	4
自然敬愛都市宣言	8
安全・安心都市宣言	12
未来宣言	16
10年の軌跡を辿り次代へ 未来につなげる維新の志	18
日本を支える人づくり	20
ひかりを放つまちの原動力	22
新たなひかりを育むまちの活力	24
光を生み出す匠の技 人間国宝 山本晃	26
夢を未来へ 市民宣言	28
	30





「おっばい都市宣言」

「自然敬愛都市宣言」

「安全・安心都市宣言」

わたしたちは

この3つの都市宣言を胸に

これからも

「やさしさあふれる

『わ』のまち ひかり」を

目指して

歩み続けます

光市
Hikari City



光市の地勢

光

市は、山口県の東南部に位置し、東は田布施町、北は周南市、西は下松市に隣接しています。

瀬戸内の温暖な気候で、二年を通して住みやすく、また、豊かな自然環境にも恵まれたまちで、白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸など、風光明媚な海岸部は瀬戸内海国立公園に、緑豊かな石城山を中心とした山間部は石城山県立自然公園にそれぞれ指定を受け、市民の生活に彩りと癒しを与えています。

おっばい
都市宣言

3つの
都市宣言

おっばい都市宣言

優しさと

温もりに包まれ

たくましく

心豊かに育まれた

子どもたちとともに

笑顔あふれる

まちの未来へ



おっばい都市宣言

- 1 私たちは、おっばいをとおして、“母と子と父そして人にやさしいまち光”をつくります。
- 2 私たちは、おっばいという胸のぬくもりの中で、子どもをしっかりと抱き、愛しみ、心豊かで健やかな輝く光っ子を育てます。
- 3 私たちは、すべての母親のおっばいが、より豊かに赤ちゃんに与えられるよう皆で手助けします。
- 4 私たちは、おっばいを尊び、偉大なる母を皆で守ります。

「おっばい」何と温かく、優しい言葉でしょう。「おっばい」をとおした母と子の穏やかなふれあいは、真に生きる力を持つ、心豊かでたくましい若者を育ててくれることでしょう。

そして、この若者たちが“母と子と父そして人にやさしいまち光”で子育てを楽しみながら、このまちに住み、まちとともに輝くことを夢みて、ここ光市を「おっばい都市」とすることを宣言いたします。

平成17年6月30日 山口県光市議会

POINT

県内トップクラスの 充実した子育て環境



市民の出生数の約4倍もの人が市外から訪れる2つの産婦人科をはじめ、恵まれた産科・小児医療体制のもと、妊娠期からのきめ細かな相談・指導体制、待機児童0人の保育環境、小学生から高校生までの入院医療費無料化など、安心して子育てができる環境づくりを進めています。

充実した子育てを支援する 母子保健推進員の活動

母子保健推進員は、母と子の健康づくりを中心に、市と連絡を取りながら各地区で活動しています。妊娠中から乳幼児期にかけては、子ども1人当たり13回以上の家庭訪問を行い、子育て情報の提供や相談を行うなど、頼れる「近所のお母さん」として地域における子育て支援の輪を広げています。



キラリ光る まちの「宝」を育む



1

1 家族学級

父親も含めて家族で赤ちゃんを迎え入れられるよう家族で妊娠や出産について学ぶ教室を開催しています。

2 乳幼児健康診査

光市医師会や光市歯科医師会と連携し、乳幼児の健全やかな成長を支えています。

3 留守家庭児童教室

放課後19時まで保育を実施し、子どもの安全安心な居場所づくりと子育て家庭の仕事と子育ての両立を支援しています。

一人ひとりを尊重した幼児期の教育・保育

市内12保育所と7幼稚園では、幼児期の育ちや個性に応じたきめ細かな教育・保育の提供を目指しています。また、地域の子育て拠点として、子どもだけでなく、保護者の子育ての悩みの相談や助言を行っています。

全 国に唯一無二の「おっばい都市宣言」。私たちは、心温かい人が育つ「わ」の子育てに、ともに取り組みます。

子どもたちの健やかな成長を地域で支えるとともに、将来、親となる子どもたちに命の尊さや思いやりを育む取り組みも進めています。

子どもを生み育て、いつまでも住み続けたいと思えるまちを目指し、次代を担うまちの「宝」である子どもたちを、母が、父が、そして地域社会が温かく見守りながら心豊かに育んでいけるよう、子育て応援イベントや相談など、様々な支援を展開しています。





未来のパパママ応援事業

中学生は、乳幼児とのふれあいを通して命の尊さや家族への感謝の気持ちを感じ、思いやりの心が育まれます。また、子育て中の保護者に話を聞き、育児の楽しさや大変さを学ぶことで、将来、親になるための第一歩を踏み出します。

立野 陽子^{さん}
 瑠夏^{ちゃん}
 結愛^{ちゃん}



育児の楽しさを教えてくれるまち

結婚を機に光市へ移住してきました。光市は、子育てに関するサービスが充実しており、特に母子保健推進員や保健師の方が、家族のように親身になって相談に乗ってくださるので、安心して子育てができます。また、よく利用する子育て支援センター「チャイベビステーション」

「シヨン」では、同年代の母親とも仲良くなり、子育ての楽しさや大変さを共有することができて、本当に嬉しかったです。今後さらに子育て支援が充実し、「子育てするなら光市で」と言われるよう、光市の魅力を全国に発信していければいいですね。



2



3

interview

3つの
都市宣言

自然敬愛
都市宣言

自然敬愛都市宣言

自然の恵みに寄り添い

たゆまなく続く

営みに感謝し

次世代へと

守り伝える

悠久の未来へ



光市自然敬愛都市宣言

—美しくすばらしい自然を次世代へ—

わたくしたちのまち光市は、白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸、市民や水鳥の憩いの場である島田川、また、原生樹林のある峨嵋山や神籠石のある石城山など、古来から先人たちが守り育ててきた水や緑の豊かな自然を有し、今日まで、はかりしれない多くの恵みを受け、健康で文化的な生活を築いてきました。しかし、現代社会がもたらした地球環境の悪化は、わたくしたちにとって、緑や生態系の破壊、異常気象など重大な問題を生じさせています。

わたくしたちは、こうした問題を深刻に受け止め、山や川、海の多様な生物の生態系保全とともに、自然と共生できる社会の実現に努める必要があります。そして、わたくしたち市民一人ひとりが光市の財産であるふるさとの豊かな自然環境を守り育て、次世代へ引き継がなくてはなりません。

美しい山・川・海を有するわたくしたち光市民は、その恵みに感謝し、自然を敬愛し、自然の摂理にかなった、快適でうるおいとやすらぎのあるまちづくり、ふるさとづくりを進めることを、ここに宣言します。

- 1 自然の偉大さ、やさしさ、きびしさを知り、自然に学びふれあい、豊かな心を育みます
- 2 美しい緑、清らかな水、さわやかな空気のもと、ふるさとのかけがえのない自然を創意と工夫をもって守ります
- 3 自然を敬愛する心を養い、はかりしれない自然の恵みに感謝します

平成18年3月23日 山口県光市

POINT

白砂青松の 室積・虹ヶ浜海岸



瀬戸内海国立公園の一部を形成し、西日本屈指の美しさを誇る室積・虹ヶ浜両海岸は、白い砂、青く澄みきった海、豊かな松林が見渡す限り続き、「日本の白砂青松100選」「日本の渚百選」「森林浴の森日本100選」などにも選定されています。

潤い豊かな川

母なる川、島田川をはじめとする4つの水系域を有する光市。水鳥やホタル、貴重な水辺の生物の宝庫で、おいしい飲料水としてはもちろん、農業・工業用水、カヌーや釣りなどのレジャー、環境教育など、その清らかな水は、私たちのまちを支え、潤いのある生活や自然の大切さを教えてくれます。



自然を愛し 自然と共に生きる



1

1 親と子の水辺の教室

身近な水辺に親しみながら、水生生物を楽しく観察することで、自然を愛しむ心を醸成しています。

2 白砂青松10万本大作戦

まちの象徴、室積・虹ヶ浜海岸松林を守り育てるため、多くの市民が松の植栽に参加しています。

3 太陽光発電システムの導入

全国的に日照時間がトップクラスという地域特性を活かし、太陽光発電システムの普及を促進しています。

石城山

約2.5kmにわたり巨石が一行に並んだ列石や見事な石組みの水門など、貴重な文化遺跡と緑豊かな自然が共存する石城山。遊歩道では、四季折々の植物を愛でながらハイキングや森林浴が楽しめます。

また、「日本の森・滝・渚全国協議会」にも加盟し、全国の自治体と連携して、自然環境の保全と、自然敬愛の精神を日本中に発信しています。

この宣言を契機に、山・川・海と
いった自然に対する意識をいっそう
高めるとともに、クリーン光大作戦
や白砂青松10万本大作戦の展開
など、市民との協働による自然環
境の保全と創造への実践活動を推
進しています。

この宣言を契機に、山・川・海と
いった自然に対する意識をいっそう
高めるとともに、クリーン光大作戦
や白砂青松10万本大作戦の展開
など、市民との協働による自然環
境の保全と創造への実践活動を推
進しています。

全

国で初めての「自然敬愛都市宣言」。私たちは、ふるさととの豊かな自然を次世代につなげるため、自然と人の共生のまちづくりを進めます。





クリーン光大作戦

自然敬愛への自覚と意識の高揚、青少年の健全育成を目的とした環境美化活動「クリーン光大作戦」。40年以上の歴史を持ち、光市が誇る良き伝統として、今に受け継がれています。

クリーン光推進協議会 会長
植村 芳弘さん



全国に誇れる取り組みを後世へ

クリーン光大作戦に参加して20年以上になります。

昭和48（1973）年に光市の青少年団体連絡協議会が海岸・河川の清掃を提唱したことから始まったこの活動も、今では毎年大勢の市民や市外のボランティアの人たちが参加する一大イベントへと成長しました。これほど市

民の自然に対する意識が高く、主体性にあふれたまちは他にないですし、市の助力も大きいと思います。

今後は若い人、特に新しく市民になられた人たちに、私たちの想いをつなぎながら、活力と自然があふれるまちづくりのお手伝いを続けていきたいですね。

interview



2



3

3つの
都市宣言

安全・安心
都市宣言

安全・安心都市宣言

ふれあいを

通して

育まれる

助けあいと

思いやりの心

すべての人が

心豊かな

暮らしを営む

ふるさととの未来へ



光市安全・安心都市宣言

私たちのまち光市は、豊かな自然と人々の明るい笑顔があふれるまちです。ふるさとの息吹に包まれて、いつまでも健康で心豊かな暮らしを営むことは、私たち市民共通の願いです。

しかし、私たちの生活は、頻発する台風や集中豪雨、地震などの自然災害に加え、凶悪な犯罪や悲惨な交通事故、消費者被害など様々な危険や不安に脅かされています。

子どもからお年寄りまですべての市民の安全が確保され、安心して暮らせるまちを実現するためには、「光市安全安心まちづくり条例」の理念のもと、市民自らが様々な事件や事故に対する関心を高め、地域や家庭で力を合わせて、支えあいと助けあい、思いやりの精神に満ちた社会を築くことが大切です。

ここに、市民の英知と力を結集して安全で安心して生活できるまちづくりを進め、光市を「安全・安心都市」とすることを宣言します。

- 1 地域の防災力を高め、災害に強いまちを目指します
- 2 犯罪や交通事故を未然に防ぐまちを目指します
- 3 安全な消費生活を実感できるまちを目指します
- 4 人権が尊重され、思いやりに満ちたまちを目指します
- 5 安全で安心できる生活基盤が整備されたまちを目指します

平成20年9月22日 山口県光市

POINT

全ての市民に 安全と安心を



全ての市民が、健康で安心して暮らせるまちを目指し、2つの市立病院を中心とした地域医療体制をはじめ、防災行政無線の整備や消費生活相談体制の強化など、安全で安心できる生活基盤を整備し、市民生活を支えています。

地域の防災リーダーを養成

地域防災力の向上を図るため、毎年、「自主防災組織リーダー研修会」を開催しています。研修会では、講習のほか、「自助」「共助」に役立つ体験学習も取り入れており、地域で幅広く活躍できる人づくりを進めています。



支えあい、助けあえる 心豊かな生活を



1

1 災害時要援護者把握事業

民生委員の戸別訪問により災害時に自力で避難することが困難な人の把握を行い、地域における避難支援体制を整備しています。

2 防災行政無線の整備

市内77箇所に設置した屋外拡声子局から、サイレンと音声で防災情報や避難情報などを一斉に放送します。

3 消費生活センターの設置

消費生活の安定・向上を図るため、専門の相談員が消費生活全般に関する相談に応じています。

防犯ボランティア

地域の安全を守るため、住民による防犯ボランティアを組織し、通学路安全マップの作成や子どもの見守り活動などに取り組んでいます。参加することで、住民同士のコミュニケーションも深まり、やりがいや生きがいづくりの場にもなっています。

地域全体が力を合わせて支えあい、助けあえる体制を強化し、思いやりに満ちた心豊かな生活を送れるよう、取り組みを進めています。

市民の安全・安心に対する自主的な活動を支えるため、行政、事業者がそれぞれの役割を果たし、さらには、地域コミュニティやNPOが加わり、協働でまちの安全・安心を守る様々な活動を行っています。

私たちは、ともに手を携えて、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくりを進めます。

全

ての市民の願いを込めた「安全・安心都市宣言」。私





認知症高齢者等徘徊模擬訓練

認知症に対する理解を深めるため、認知症の方への声かけや対応などを体験しながら学ぶ「認知症高齢者等徘徊模擬訓練」を実施しています。その他にも、「認知症サポーター養成講座」や医療・福祉・介護の専門職による「もの忘れ相談会」を開催するなど、認知症の方とその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域の見守りネットワークの構築に取り組んでいます。



西ノ庄連合自治会防災部 部長
梅丸 博さん

「共動社会」で地域を守る

防災で重要なことは、行政に任せっきりになったり、一部の人がだけ動いたりするだけでなく、地域全体が関わる体制をつくり、共に動く「共動社会」を築くことです。

西ノ庄連合自治会防災部は、光市が合併して半年後に発足し、住民同士が協力して危険箇所をリストアップし、それをまとめた独自

の防災マップを作成したほか、防災訓練に多くの住民に参加してもらえるよう、地域のイベントや祭りに合わせて行うなどの工夫をしました。

今後は若者も含め、もっと多くの方と協力し合い、万が一の災害時に、一人でも多くの命を救えるよう、協力していきます。



2



3

interview

Hikari City

やさしさあふれる「わ」のまち ひかり

ひかり宣言

未来宣言

10年を振り返り
さらにひかり輝く未来へ



その名のごとく

「光」あふれる理想のまちを

目指して歩んできた10年間

一つになった道に

力強く刻まれた無数の足跡は

輝く未来を切り拓く決意の証

私たちは、次の10年、20年へと

つながる飛躍への道の先に

さらなる輝きにあふれた

未来を追い求めます



Hikari City History

光市10thアルバム

10年の軌跡を辿り 次代へ



いま
光市の「現在」を築いた歴史
その10年の軌跡を辿り、未来へとつないでいく

平成16年～平成26年

平成16年

10月 新「光市」が誕生し、開市・開庁式を開催

平成17年

4月 市立図書館大和分室「あじさい文庫」がオープン
7月 ファミリーサポートセンター事業を開始

10月 新「光市」誕生1周年記念式典で、「光市民憲章」と市の木「クロマツ」、市の花「ウメ」を制定

11月 島田地区と浅江地区を結ぶ光大橋が開通

平成18年

4月 市立小中学校に二学期制を導入

5月 室積・虹ヶ浜海水浴場が「快水浴場百選」に選定

11月 「ひかり全国人形劇フェスティバル」を開催

平成19年

2月 梅まつり開催20周年記念植樹式を開催

10月 地域づくり支援センターがオープン

平成20年

1月 「ふるさと光の会」設立総会・交流会を東京都内で開催
9月 総合福祉センター「あいはらく光」に「チャイベビほっとサロン」がオープン

平成21年

4月 消費生活センターを開設
8月 初代内閣総理大臣伊藤博文公没後100年記念事業を展開





光市の歩み

平

成16年10月4日、旧光市と大和町が合併。比類なき自然や産業、そして誇るべき歴史と人々の熱い想いが一つとなり、新生「光市」が誕生しました。

「光る個性 地域の和 人と自然にやさしい生活創造都市」を指してスタートした光市は、3つの都市宣言の理念を基本として、このまちで暮らす人々の支えあいによる協働のまちづくりを進めてきました。

光あふれる未来へ

人

々のやさしさや想いを紡ぎあげ、一つになった私たちのまちは、新市誕生10周年を迎えました。この10年を未来への礎とし、「対話・調和・人の輪」による「わ」のまちづくりを通じて光あふれる未来へ向かって、新たな一歩を踏み出します。

平成22年

- 5月 「市長と気軽にミーティング」を開始
- 7月 周南都市計画道路「虹ヶ丘森ヶ峠線」(浅江島田間)が開通

平成23年

- 2月 市内4小中学校に太陽光発電システムを設置
- 7月 農業振興拠点施設「里の厨」がオープン
- 10月 「おいでませ！山口国体」を開催。セーリング競技では光市勢を中心とした山口県チームが男女総合優勝

平成24年

- 2月 冠山総合公園に「子ども森」がオープン
- 4月 三井地区と上島田地区を結ぶ三島橋が開通
- 10月 三島温泉健康交流施設「ゆーぱく光」がオープン

平成25年

- 5月 「雇用の日」メッセージフェアを開催
- 7月 岩田駅周辺地区が山口県のコンパクトなまちづくり推進事業のモデル地区に選定
- 9月 冠山総合公園に「ひかり花館」がオープン

平成26年

- 8月 新学校給食センターが竣工
- 10月 新市誕生10周年記念式典を開催





光市が誇る偉人

未来につなげる 維新の志

未来
宣言

▲旧千円札の第1号券

伊藤公資料館に、昭和38(1963)年に発行された肖像入り旧千円札の第1号券を展示しています。

近代日本の礎を築いた初代内閣総理大臣・伊藤博文
光市が誇る偉人から受け継がれる
未来への志とは

命をかけて拓いた 未来への志

伊

藤公は光市に生まれ、17歳で松下村塾へ入門。そこ

で高杉晋作や木戸孝允らとともに吉田松陰に学び、尊王攘夷の志士として活躍しました。

21歳になると、「世界と渡り合える新しい日本の時代をつくる」という志を胸に、当時国禁を犯す大罪であった海外渡航を決め、後に「長州ファイブ」と呼ばれる井上馨ら4人と命がけの英国留学に旅立ちました。産業革命に沸き立っていた大英帝国の首都ロンドンを目の当たりにした伊藤公は、その圧倒的な国力を認識し、攘夷を捨て開国論に転じることを決意。

留学から半年後、長州藩の攘夷に対する外国の報復砲撃を知り、「今の日本は西欧を敵にするだけの力はない」と考え、戦いを回避するため志半ばで帰国の途につきましたが、留学中に得た英語力は、その後の伊藤公を支えるかけがえのない財産となりました。

「日本」の

地位向上に尽力

明

治維新後は政府の要職を歴任し、明治18(1885)

年に内閣制度が創設されると、初代内閣総理大臣に就任。その決め手は「これからの総理は外国からの電報が読めなくてはだめだ」という井上馨の言葉でした。

以後、四次に渡りその職を務めた伊藤公は、大日本帝国憲法の制定をはじめ、清国との下関条約の調印や初代韓国統監になるなど、優れた外交手腕を発揮し、「世界」における日本の地位向上に尽力しましたが、明治42(1909)年、ハルビン駅(現・中国)で暗殺され、その生涯を閉じました。



◀長州ファイブ

幕末から明治にかけて日本の近代国家建設、工業化に貢献し、世界に通じる新しい道を命がけで切り拓いた5人の長州藩士。

遠藤謹助(上段左)、井上勝(上段中央)、伊藤博文(上段右)、井上馨(下段左)、山尾庸三(下段右)



今も残る、伊藤公の面影

天

保12（1841）年9月2日、熊毛郡東荷村（現・光市大字東荷）に農家の長男として

生まれた伊藤公（幼名・林利助）は、7歳までこの地で過ごし、地元には負けず嫌いで利発な少年利助のエピソードやゆかりの地が数多く残り、訪れるだけで当時のロマンと伊藤公の足跡に思いを馳せることができます。

また、伊藤公の生涯や業績を次代のまちを担う子どもたちに

伝える遺徳継承事業では、英語が堪能であった伊藤公にちなんだ「英語スピーチコンテスト」や、伊藤公の足跡を楽しみながら学ぶ「子ども歴史講座」を開催し、激動の時代を駆け抜けた幕末・維新の立役者・伊藤公の「志」を時を超えて、新たな世代へと継承しています。

伝える遺徳継承事業では、英語が堪能であった伊藤公にちなんだ「英語スピーチコンテスト」や、伊藤公の足跡を楽しみながら学ぶ「子ども歴史講座」を開催し、激動の時代を駆け抜けた幕末・維新の立役者・伊藤公の「志」を時を超えて、新たな世代へと継承しています。



▲伊藤公資料館

伊藤公資料館は、伊藤公の遺墨や遺品を展示し、幕末から明治までの日本の動きを紹介しているレンガ造りの明治風建築物です。また、生家と旧伊藤博文邸の間に位置することから、「利助と博文を結ぶタイムトンネル」という要素を持たせています。



- 1 伊藤神社跡地に伊藤公の面影を偲ぶために建立された銅像
- 2 伊藤公が基本設計を行った旧伊藤博文邸（県指定有形文化財）
- 3 伊藤公の生家（復元）。近くには幼年期に登って遊んだとされる柿の木の二世も残っています。
- 4 生家（復元）の裏にある伊藤公の産湯に使ったとされる井戸

column
伊藤公の「光」を訪ねて

伊藤公に続け!! ひかり『夢大使』事業

本事業は、長州ファイブの一人として海外渡航に挑戦した伊藤公の生き方に触れ、グローバルな視点で地域貢献できる青少年リーダーを育成する新市誕生10周年記念事業です。まちづくりや国際交流に関する学習を通して、自主自立の精神、国際感覚や豊かな人権感覚、新たな価値・満足を生み出す創造力などの育成を目的としています。



▲ひかり「夢大使」に選ばれた中学生6人と市川照市長

事前学習で伊藤公や光市のまちづくりについて学び、平成26年8月4日から11日までの現地研修で、長州ファイブの足跡を辿るフィールドワーク、日本大使館やロンドン市庁舎、ロンドン大学などを訪問しました。当時の面影を肌で感じた子どもたちには、目に映るものすべてが新鮮さと驚きに満ちており、大変得るものが多い8日間の滞在となりました。



市長×夢大使

日本を支える 人づくり

伊藤公の志を維新から
現代へと受け継ぐ

未来
宣言

現在

渡英して感じた伊藤公の志

【市長】皆さんこんにちは。「ひかり『夢大使』事業」として皆さんと渡英したロンドンでは、伊藤公たち長州ファイブの足跡を辿り、彼らが学んだ大学やアパートのほか、彼らを支えた人や、志半ばで亡くなった方のことも学びました。日本の将来のために命をかけた彼らの「志」を目の当たりにしてどんなことを感じましたか。

【山口】渡英には飛行機で13時間もかかりましたが、彼らは荒れ狂う海原を4ヶ月の間、航海しました。行くだけでも命がけ

ち並みは当時のままだと聞き、僕が見た景色と当時の伊藤公が見た景色が同じだと思いと、心が熱くなりました。



(左から)

吉川 仁紀さん
山口 侑華さん
桐山 大輝さん
市川 照 市長

國廣 美穂さん
河野 慎平さん
佐藤 れなさん

だったことを思うと、伊藤公たちの情熱が伝わります。

【吉川】イギリスの人たちの文化・伝統を受け継いでいく心を感じることができ、日本との差を感じました。

【佐藤】日本を変えたいという「志」を胸に旅立った伊藤公たちの足跡を学び、改めて伊藤公を輩出した光市を誇りに思います。

【河野】かつての長州ファイブは、ロンドンの建物の規模や蒸気船など、国力差に圧倒されたと思います。日本も近代社会で急成長しましたが、やはり大国であるイギリスとの歴史・文化の重みは違うと感じました。

【國廣】ウイリアムソン教授は、知らぬ日本人にもかかわらず、伊藤公たちに食事や寝床を与え、人としての心の広さは物質的な豊かさよりも重要ということを教えてくださいました。

受け継がれる志

【市長】今回の研修を通して、将来どんな大人になり、光市をどんなまちにしていきたいか、皆さんの「志」を教えてください。

【吉川】自らが率先して行動し、光市の発展に貢献したいです。

【河野】人や社会に貢献できる人材を目指します。

【國廣】世界に広がった視野を活かして、光市のため、人のためになることをします。

【山口】日本の良さにイギリスの良さを盛り込み、光市を盛り上げていきたいです。

【桐山】古き良き伝統が残るイギリスの心を学んで、日本の伝統を未来につなげていきたいです。

【佐藤】光市から日本の魅力を世界へと発信し、日本と世界をつなぐまち、光市を目指します。

【市長】皆さんが話してくれた「思い」や「志」をより多くの人に伝えていただき、その「志」が市全体へと広がり、光市をより住みやすいまちにしていくという「志」を胸に、談和会を終わりたいと思います。ありがとうございます。



【市長】皆さんが感じた「志」、現地で感じた「風」を私たちが伝え、受け継いでいかなければなりませんね。



ひかりを放つ まちの原動力

確かな技術力と豊かな創造力
そして飽くなき情熱
このまちに輝く元気な企業は
このまちとともに成長を続ける



業界をリードする モノづくり

戦

後、豊かな市民生活を願い、工業立市を掲げた光市は、光海軍工廠の跡地に進出した武田薬品工業株式会社並びに八幡製鐵株式会社(現：新日鐵住金株式会社)を中心とする化学と鉄鋼のまちとして、周南工業地帯の二翼を担う近代都市として発展を続けてきました。

また、大正元(1912)年に島田村で創業した宮本製菓所(現：カンロ株式会社)をはじめ、光市発祥の企業が独自の製品、技術を開発し、全国から注目を集めています。

このほかにも、約2,000もの様々な分野の個性と魅力にあふれる事業所が、地域に根ざしたオンリーワンとして、着実に発展を続けています。

そのパワーの源は、まぎれもなくここで働く「人」。約2万人もの働き手が、日夜、その技と心を磨きながら、自らの「仕事」に誇りを持ち、さらなる高みに挑戦しています。

企業、そして、人の飽くなき情熱の結晶は、ひかりを放つ、まちの原動力となっています。

老若男女問わず
好まれる味を目指し、
“ひと粒の幸福”を
お届けしたいですね。

カンロ株式会社ひかり工場
工場長
山本 寿男さん

子どもの頃からカンロ飴の香りを感じながら育ちました。現在、市と協働で観光にも力を入れています。もっと盛り上げていけるよう、楽しいイベントや企画にチャレンジしていきたいです。



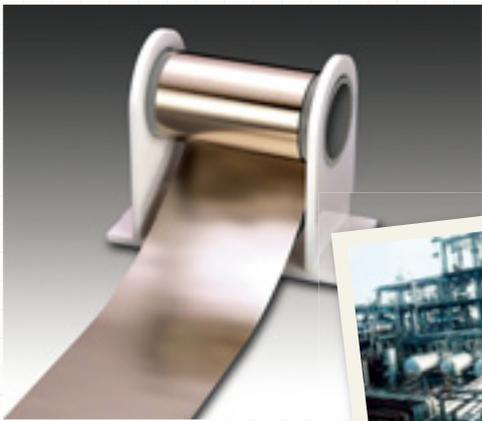
ひと粒の幸福を届けたい

ひと粒食べれば、甘しょっぱくどこか懐かしい味がする「カンロ飴」をはじめとし、「果実のど飴」や「ピュレグミ」などでおなじみのカンロ(株)は、大正元(1912)年、「宮本製菓所」として創業しました。大正11(1922)年に新工場を建設、昭和35(1960)年に社名をカンロ(株)に変更します。カンロ(甘露)とは、天から降る甘い露であり、この世に存在する美味の代名詞を語源としている同社では、創業80周年以降、毎年創業年数と同じ箱数の飴を市に寄贈し、市内各所に甘い贈り物を届けています。「美味しさ・楽しさ・健康」、創業以来大切にしてきた企業使命を掲げ、また原点である“創意と工夫”により、今後も消費者に愛される、一段と輝く「ひと粒のメッセージ」を作り続けています。



カンロ株式会社

新日鐵住金ステンレス株式会社



社会を支える 緑の下の力持ち

新日鐵住金グループは、新日鐵住金ステンレス(株)、新日鐵住金(株)、新日鐵住金マテリアルズ(株)の3社が光市で協同して事業を推進しています。各社の商品は、自動車のバネ部品や構造部品、排気ガス部品などや、住宅の建材・厨房、パソコンの部品、といった身近な商品に加工される高付加価値の鉄鋼材料や、エネルギー関係に使用される高品質のパイプ製品です。

これらの鉄鋼製品を高度な技術力、開発力、課題解決力を発揮して世界に向けて発信しています。



目指すは世界No.1の
鉄鋼メーカー。
世界をリードする
存在を目指します。

新日鐵住金ステンレス株式会社 マネージャー 松岡 匠さん

ステンレス製造設備の保守を担当して40年になります。入社の際の動機は父が働いており、その背中を見て育ったので自然と新日鐵へ。そして、私の長男も。親子三代、皆さんの生活を影ながら支えています。

武田薬品工業株式会社



武田薬品工業株式会社 製薬本部光工場 戸本 結依さん

生まれも育ちも光市で、今年で入社3年目です。日々、新薬開発への協力とともに、高品質な製品の生産に取り組み、日本中を、世界中を笑顔にしていきたいです。



人々の健康と 医療の未来に貢献

武田薬品工業(株)は、「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」という経営理念のもと、「タケダイズム(誠実：公正・正直・不屈)」に則り、研究開発から医療現場における情報活動まで一貫した体制で事業を展開しています。

光工場は、光市の一員として、地域の皆様とともに歩み、光市から全国へ、そして、世界へと高品質な医薬品を届けます。



少しでも早く、少しでも多くの
人々の願いに応えていきたい。
それが私たちの変わらぬ想いです。

活力を生むまちづくり

未来
宣言

現在

新たなひかりを育む まちの活力

「食」づくりは「人」づくり 「人」づくりは「まち」づくり
光市の里と海から生まれる
新たな第六次産業創造プロジェクト



農業振興拠点施設 「里の厨」くりや

笑

顔を生み出す、光市農業
振興拠点施設「里の厨」。

地場産農林水産物の加工・販売に
よる地産地消の推進、経営基盤の
整備や後継者の確保対策、地元食
材を見つめ直すことによる食農教
育の促進や観光振興の強化など、
様々な視点を有機的に結びつけた
第六次産業化から「新たな価値」を
創出し、活力と賑わいに満ちた地
域社会の実現を目指しています。

「農」でつなぐ

人の輪

里

の厨は、市内外から年間約
25万人に利用されていま

す。当施設では、新鮮でおいしい農
産物や地場産にこだわった特製弁
当、生産者自慢の加工品を販売し
ているほか、種まきから収穫までを
地元農家と体験できる農業体験を
行っています。さらには、地場産農産
物を使った豆腐づくりやそば打ち
体験など、地産地消を楽しく学べる
体験型イベントを開催しています。
つくり手の「真心」と食べる人の
「喜び」、お互いの感謝の心をつな
げ、そこから生まれる「輪」は、人に
笑顔をもたらし、まちに活力を生み出し
ています。



ニューファーマー&ニューフィッシャー

産業がもたらす地域活性化を目的に光市が取り組む、新規農業・漁業就業者への研修制度。経験ゼロでも現場で活躍できる人材の育成を支援し、「自分たちが光市の第一次産業を支える」という熱い思いを胸に奮闘する「人財」を生み出している。



「やりたい事がありすぎて、年をとる暇がない」と語るお二人。商品のロゴやポップは全て真奈美さんの手作り。



平成25年就労
ニューファーマー
イチジク農家

もともと農業が好きで、家庭菜園をしていた大治さんは、ふと目にした農家募集のCMがきっかけで本格的に農家を目指すことを決意。山口県立農業大 学校、農事組合法人つかりでの研修を経て、光市へ移住しました。

「生で食べるイチジクも最高ですが、今後はイチジクを使ったジェラートや乾燥イチジクなど、加工品にもチャレンジしていきます」と笑顔で夢を語る夫妻と、後ろで無邪気に遊ぶ子どもたちの笑顔を、夏の太陽が明るく照らします。

豊

出穂大治・真奈美 夫妻

かな自然の中、ロハス生活を満喫する出穂さん夫妻。

緑

麻野将也さん



平成23年就労
ニューファーマー
農家

麻野さんの今後の目標は、ブドウの本格的な栽培。「自然は仲間であり、ライバルですね。負けないように頑張ります」と語ってくれた。

れも育ちも光市で、幼い頃から自然と触れ合い育つ中で、農家を目指すことを決意。その頃、市では農家の後継者不足が問題になっていることに対し、就農支援の取り組みを実施。麻野さんを農事組合法人つかりの職員として迎えました。

「野菜は本当に正直者。怠けたらそのまま形に現れ、頑張ったらその分返してくれる。本当に可愛いです」と、まるでわが子のように野菜と接する若き農家のまぶしい汗が、笑顔を二層輝かせています。

漁

國永大輔さん



平成25年就労
ニューフィッシャー
漁師

國永さん(右)と、同じく漁師の福本さん(左)。「今後はより品質・鮮度の高い魚を提供したいですね」と笑顔で語ってくれた。

師を育成し、豊かな海を守るために「新規漁業就業者確保育成推進事業」に取り組んでいる光市。2年間かけてじっくり技術を身に付け、新たに漁師の仲間入りをした國永さん。

「漁師になるのが夢だった」と語る國永さんは、福岡県出身で、漁業就業者フェアで光市と出会い、本格的に漁師の道を進みます。「夢は光市の海の良さをもっとPRすること。素晴らしい自然に感謝しながら、これからも、ともに生きていきたいですね」と、日焼けした顔で力強く語ってくれました。

来言
未宣

現在

光を生み出す

匠の技

人間国宝・山本晃さん
光市が生み出した偉人の
独占インタビュー

冷たい金属に 温かな命を吹き込む

人

人間国宝という重厚な響きをよそに、「いらつしやい」と

気さくな笑顔で出迎えてくれた山本さん。切嵌象嵌、接合せと呼ばれる技法を用いた独自の作風が評価され、平成26年に人間国宝に認定されました。「もともと興味があり、好きだったんで寝るのも忘れるぐらい、無我夢中でやり続けましたね」。

地元の高校を卒業後、東京で工業デザイナーとして就職。「制約が多く力を発揮できない」と感じ、30歳

の時、自由度の高い彫金家へ転向します。独学で編み出した金・銀・銅の絶妙な組み合わせによる色彩と、0.2ミリの誤差も許さない繊細な技術から生まれる模様やグラデーシオンはまさに圧巻です。「毎朝5時に散歩しています。光市の風景は本当に美しい。見ているだけでアイデアが湧いてきますよ」。その故郷への想いが作品に命を吹き込みます。「辛いと思



えるかも知れないけど、僕は楽しくて仕方ないんですよ。好きであれば何だってできる。今の若い子たちも、自分が心から『好きだ』と言えるものを見つけて欲しいですね。光市の自然をこよなく愛し、少年のような笑顔で制作に没頭する山本さん。「誰もが美しいと思える作品をつくり続けたい」。人間国宝・山本晃の飽くなき挑戦は、まだ始まったばかりです。

▼第19回 MOA岡田茂吉賞大賞受賞 切嵌象嵌接合せ箱「夕凧」

無風の水面を静かに煌めかせる夕日のグラデーシオンが美しいこの作品は、室積海岸からインスピレーションされたもの。全て手作業とは思えない繊細さと、山本さん独自の色彩により、ふるさと光の夕凧を表現。箱を開けると港に帰る舟や水面に浮かぶ島々のシルエットなど、また違った表情を見せてくれます。



▲輝翔の詩

光駅前広場に設置されているモニュメント「輝翔の詩」。高さ約7mで「白い砂浜、豊かな川の流れ、波のうねり、太陽光線の屈折による虹」などが表現されています。



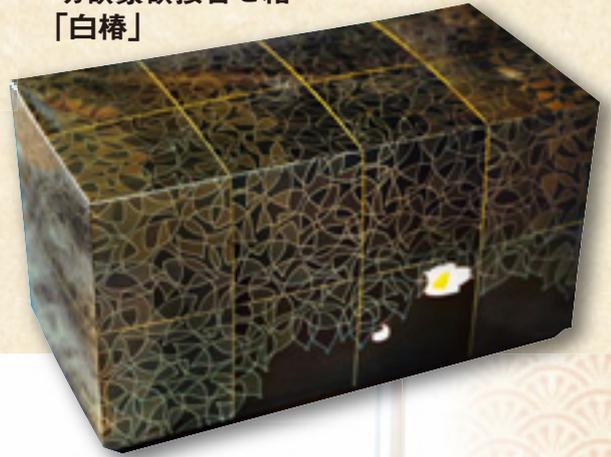
▲愛用のヤスリ

◀山本 晃(やまもと あきら)さん

光市生まれ。工業デザイナーとして東京で就職し、その後彫金の道へ。帰郷後十数年、山口芸術短期大学の講師を勤めるとともに、自身の工房で彫金教室を開くなど、後進の指導を行っています。

昭和60(1985)年第32回日本伝統工芸展で初入選を果たして以来、連続入選という快挙を成し、その後数々の賞を受賞。独学で編み出した技法と、独自の合金による詩情あふれる作品制作に挑み続け、平成26(2014)年、重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されました。

▼第56回 日本伝統工芸展入選
切嵌象嵌接合せ箱
「白樺」



人間国宝
山本 晃
【彫金家】



光で生まれ、光で育ち、光で夢を抱く
その夢は、まちをさらに輝かせる
「ひかり」となる



未来へ描く夢や決意



楽しく勉強
できるまちに



みんなが笑顔で
暮らせるまちに!



平和で笑顔が
あふれるまちに!!



地産地消の輪を
広げたい



キレイな山・川・海を
ぼくらの手で
守っていききたい

夢を未来 市民



ずっと住みたい
まちを目指して

ひかり輝く 未来へ

「ひかり」。それは、わがまちの誇りであり、象徴です。新市が誕生し、皆様とともに10年の時を積み重ねてきた今、まちのいたるところで「ひかり」を感じることが出来ます。

同時に、これからがまちの真価が発揮される時です。新たなスター・トラインに立った光市が、輝く明日に向かって踏み出すためには、このまちをこよなく愛する皆様一人ひとりの夢が大切です。まちと人が「ひかり」輝く未来に向けて、これからも、ともに歩んでまいりましょう。



光市長
中川 颯



▲市の木 クロマツ



▲市の花 ウメ

新市誕生10周年記念市勢要覧



発行年月 平成26(2014)年10月
発行／光市
〒743-8501 山口県光市中央六丁目1番1号
TEL 0833-72-1400
URL <http://www.city.hikari.lg.jp/>
編集／株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所